

シンポジウム「字典・詞典の研究—回顧と展望—」

近代以前に中国、日本で編纂された辞書
総勢二十名の研究者によつて語られる
辞書研究の軌跡と未来

字典・ 詞典の研究 —回顧と展望—

講演 阿辻哲次 池田証壽 萩原義雄 李守奎

研究発表

伊藤智弘 大島英之 小野春菜
康凱欣 小林雄一 申雄哲
田中郁也 張馨方 中野直樹
武情 楊慧京 李媛

河瀬真弥 鈴木裕也
藤本灯

参加申込は
こちらから
<https://forms.office.com/r/Qp5q3Q8M7a>



2024

9/19

(木)

9/20

(金)

場所

北京

・ 清華大学 / Zoom ミーティング

言語
主催
協賛

日本語・中国語
清華大学外文系
日本漢字学会

公益財団法人日本漢字能力検定協会

シンポジウム「字典・詞典の研究—回顧と展望—」

学外からの対面参加、オンライン参加には事前申込が必要です

9月19日（木）9:00-17:25 (CST)

* 10:00-18:25 (JST)

9:00 (JST10:00) 開会の辞 (清華大学副教授 藤本灯)

研究発表

研究発表前半 司会：鈴木裕也 伊藤智弘

9:05-10:50 (JST10:05-11:50)

藤本灯 日本の“国語辞書”の語彙の消長

—『色葉字類抄』口篇疊字部の熟語を母体として—

藤本灯 日本“国语辞典”收录词汇的增减
—以《色叶字类抄》RO篇叠字部的熟语为基础

张馨方 有关观智院本《类聚名义抄》“俗通”字的研究

张馨方 观智院本『類聚名義抄』の「俗通」字について

杨慧京 朝鲜本中的字体与书体

—以《洪武正韵》和《新增类合》为例

楊慧京 朝鮮本における字体と書体

—『洪武正韻』と『新增類合』を例にして

11:00-12:10 (JST12:00-13:10)

田中郁也 朝鮮本『龍龜手鑑』今增字について

田中郁也 关于朝鲜本《龙龜手鑑》今增字

中野直樹 近世琉球で使用された字書についての一報告

中野直树 日本近世琉球所使用的字书

昼休憩

研究発表後半 司会：武倩

13:00-14:10 (JST14:00-15:10)

申雄哲 TEIとRDFを活用した

日本古辞書の出典情報の構造化

申雄哲 利用TEI和RDF构建日本古辞书出典信息的结构模式

李媛* 日本古辞书的结构化记述

：以《篆隶万象名义》为例

李媛 日本古辞书の構造化記述について：『篆隸万象名義』を例に

一講演一

司会：武倩 王成

14:15-15:10 (JST15:15-16:10)

池田証壽* 日本辞書史研究の回顧—平安時代を中心に—

池田证寿 日本辞书史研究的回顾：以平安时代为中心

15:20-16:15 (JST16:20-17:15)

李守奎 中国第一部字典《说文解字》

为什么以说解汉字编码理据为主要内容

—出土文献视域下的《说文解字》

李守奎 中国最初の漢字字典『說文解字』はなぜ漢字の構成原理を説くことを主要な内容とするか—出土文献研究の視野から『說文解字』を考える

16:25-17:20 (JST17:25-18:20)

阿辻哲次 北京図書館と『說文解字讀』

阿辻哲次 北京图书馆与《说文解字读》

17:20 (JST18:20) 閉会の辞 (清華大学日本語学科長 王成)

9月20日（金）9:00-17:15 (CST)

* 10:00-18:15 (JST)

9:00 (JST10:00) 開会の辞 (清華大学外文系副主任 高陽)

研究発表

研究発表前半 司会：申雄哲 張馨方

9:05-10:50 (JST10:05-11:50)

河瀬真弥 『日本大辞書』の「誤り」を捉え直す

—連歌用例をめぐって—

河瀬真弥 重新审视《日本大辞书》的谬误——从连歌用例谈起

小野春菜 十九世紀における『倭訓栞』の受容

小野春菜 《倭训栞》在十九世纪的容纳

康凯欣 以伊吕波顺与平仄为检字法的字书的利用实态

及其定位—以《色叶字平它》为例

康凯欣 イロハ平仄引き字書の利用実態及び位置付け

—『色葉字平它』を例に—

11:00-12:10 (JST12:00-13:10)

小林雄一 『名語記』と悉曇学

小林雄一 《名语记》和悉曇学

伊藤智弘 「字鏡集」に掲載された漢字音について

伊藤智弘 关于《字镜集》中刊载的汉字音

昼休憩

研究発表後半 司会：小林雄一

13:00-14:10 (JST14:00-15:10)

大島英之 『色葉字類抄』における吳音漢音混読語の性格

大岛英之 《色叶字类抄》中的吴音汉音混读语的性质

鈴木裕也 『倭名類聚抄』の漢音注について

铃木裕也 关于《倭名类聚抄》汉音注的研究

14:20-16:05 (JST15:20-17:05)

武倩 《本草和名》所引佚书

武倩 《本草和名》所引佚书

中野直樹・劉冠偉 『増続大広益会玉篇大全』本文の典拠

について—『大広益会玉篇』『字彙』『正字通』等の利用—

中野直树・刘冠伟 《增续大广益会玉篇大全》

本文典据考——以《大广益会玉篇》《字汇》《正字通》为中心

刘冠伟 古辞书 Web 研究资源交叉检索用元数据的设计

劉冠偉 古辞书 Web 研究資源横断検索のためのメタデータ設計

一講演一

司会：高陽

16:15-17:10 (JST17:15-18:20)

萩原義雄 続『和名類聚抄』から『倭名類聚鈔箋注』へ

萩原义雄 续：从《和名类聚抄》到《倭名类聚钞笺注》

17:10 (JST18:10) 閉会の辞 (阿辻哲次)

・発表題目上段言語での口頭発表、日中両言語での資料提供を予定します

・*印はリモート参加

・研究発表質疑通訳 康凯欣 韩一 武倩 杨慧京 张馨方

シンポジウム「字典・詞典の研究—回顧と展望—」 講演者・司会者プロフィール

——講演——

阿辻 哲次 (アツジ テツジ／ATSUJI Tetsuji)

連絡先 atsuji@ff.ijj4u.or.jp

1951年 日本・大阪府生まれ。

1971年 京都大学文学部入学。

1980年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

2017年 京都大学大学院人間・環境学研究科教授退職。

以後、漢字ミュージアム(京都市東山区)に勤務し、2023年から館長職を務める。

大学では主として中国文字学を専攻。これまでの研究として、人間が何を使って、どのような素材の上に、どのような内容の文章を書いてきたか、その歩みを中国と日本を舞台に考察してきた。

日本語と漢字をめぐる仕事として、第22期国語審議会委員を務め、さらに文化審議会国語分科会漢字小委員会委員として常用漢字表改定に携わった。日本漢字学会初代会長(現副会長)。

代表的な著書に『漢字学——『説文解字』の世界』(東海大学出版会)、「図説漢字の歴史」(大修館書店)、「戦後日本漢字史」(新潮選書)など。



池田 証壽 (イケダ ショウジュ／IKEDA Shoju)

1955年、栃木県に生まれる。1985年3月、北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。

北海道大学助手、信州大学助教授、北海道大学助教授、北海道大学教授を歴任して北海道大学名誉教授。訓点語学会前会長。

[主要業績]

「『国書総目録』の漢字について——『大漢和辞典』に見えない例を中心に」(『北海道大学文学研究科紀要』101号、2000年9月)、「寂の異体 HNGによる考察」(『訓点語と訓点資料』127輯、2011年9月)、「漢字字体史の資料と方法——初唐の宮廷写経と日本の古辞書——」(『北海道大学文学研究科紀要』150号、2016年12月)、「日本辞書史研究——草創と形成」(汲古書院、2024年1月)、「初唐宮廷写経と日本古辞書」(初出:『汉字汉语研究』2023年第4期、転載:『語言文字学』2024年第7期)。



萩原 義雄 (ハギハラ ヨシオ／HAGIHARA Yoshio)

駒澤大学教授(1986年4月1日就任、2020年3月31日退職、以後名誉教授)。駒澤大学大学院の日本文学博士課程コース満期了。武庫川女子大学の学術フロンティア推進事業「関西圏の人間文化についての総合的研究」の研究員を務める(2004年～2019年)。イタリア・ローマの Salesian Pontifical University ドン・ボスコライブラリーに研究員として赴任(2004年4月～2005年3月)。

山東大学韓国学院における4th国際学術会議(2008年10月)で『千字文』をテーマに講演。イタリア・ナポリ東洋大学にて研究発表『『作庭記』の石組み像のことばについて』、イタリア・フィレンツェ大学にて研究発表『ことばと絵巻による「鬼」の譚——「雷公」図から——』(2019年2月16日～18日)。

研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」で講演『和名類聚抄』から『倭名類聚鈔箋注』へ(2023年3月)。全国大学国語国文学研究冬季大会で口頭発表「手塚治虫漫画・アニメ作品場面の画像と心象言語解析——『火の鳥』を中心に、四三二作品全貌に迫る——」(2023年12月)。



ノ研究テーマ: ①日本の古い辞書の一般的な研究 ②国語辞典の歴史 ③仮名で書かれた仏典の研究 ④現代語辞書 ⑤文字の歴史 ⑥情報言語学 ⑦超人における人間の思考。

著書に『日本庭園学の源流『作庭記』における日本語研究』(勉誠出版、2011年)、『西來寺藏仮名書き法華経対照索引並びに研究』(勉誠出版、2015年)など。

李 守奎 (リ シュケイ／LI Shoukui)



清華大学人文学院教授。出土文献研究保護センター教授。中国文字学会副会长。長年にわたって古文字学や出土文献、漢字理論の研究と漢字文化の普及活動に尽力し、これまでに2件の国家社会科学基金重要プロジェクトを主催、また「清華簡」の整理に参画して「教育部中国高等研究機関人文社会科学研究優秀成果」一等賞を受賞した。著書に『楚文字編』、『包山楚墓文字全編』、『清華簡「繫年」文字講釈と構造研究』など多数があり、「教育部中国高等教育機関人文社会科学研究優秀成果賞」二等賞を何度も獲得、また『漢字説解一百五十講』は科学技術省選定の「2023年度全国優秀科学普及作品」に選ばれた。

——司会——

王 成 (オウ セイ／WANG Cheng)

中国・清華大学教授。1963年9月生まれ、山東大学、北京外国语大学・北京日本文学研究センターで日本語・日本文学を学んだ後、立教大学で文学博士学位を取得。首都師範大学教授を経て、現職。2004(平成16)年、第6回松本清張研究奨励事業に共同研究で入選。専門は、日本近現代文学、中日比較文学。夏目漱石、国木田独歩、阿部知二、松本清張、大江健三郎等の作家を中心とした日本近現代文学の研究や翻訳に取り組んでいます。主な論文・著書は「高度成長期の中国における松本清張の受容」(『高度成長期クロニクル』玉川大学出版部、2007年)、「修養の時代」で読む文学(北京大学出版社、2013年)、「東アジアにおける旅の表象——異文化交流の文学史」(共著、勉誠出版、2015年)。翻訳『小説の方法』(『大江健三郎自選集』第一卷、河北教育出版社、2000年)など多数。



高 陽 (コウ ヨウ／GAO Yang)

清華大学外文系副教授。2003年東北師範大学日本語学部卒業。博士(文学/東京学芸大学)。専門は日本説話文学、日中比較文学。清華大学博士ドクターを経て、現職。著書に『説話の東アジア』(勉誠出版、2021年)。2023年に『説話の東アジア』で日本説話文学会賞、中国宋慶齡基金会第十回孫平化日本学学術賞単著部門一等賞を受賞。近年の論文に「南方熊楠と『大唐西域記』」(『熊楠研究』第17号、南方熊楠資料研究会、2023年)、「説話文学と大衆文学」(『学芸国語国文学』第17号、東京学芸大学、2023年)、「説草における孝養の言説」(『東アジア孝行の文化史』、アジア遊学288号、勉誠出版、2023年)、「中世日本における玄奘像の展開」(『日本文学研究ジャーナル特集仏教と説話』第29号、古典ライブラリー、2024年)などがある。



シンポジウム「字典・詞典の研究—回顧と展望—」 研究発表者プロフィール（イ～ス）

伊藤 智弘（イトウ トモヒロ／ITO Tomohiro）



大阪大学大学院文学研究科（博士後期課程）修了、博士（文学）。現在、藤女子大学文学部日本語・日本文学科講師。専門は日本古辞書、特に「字鏡集」を中心としている。論文に「『字鏡集』の字音掲載方針について」（『訓点語と訓点資料』145、2020年、pp.62-40）、「『字鏡集』における「和訓化」方針について」（『訓点語と訓点資料』149、2022年、pp.130-105）など。

大島 英之（オオシマ ヒデユキ／OHSHIMA Hideyuki）

東京大学大学院人文社会系研究科日本語日本文学専門分野博士課程在学。国立国語研究所非常勤研究員。2019年東京大学文学部卒業。専門は、日本漢字音史。「中世における吳音漢音混読現象の展開——『色葉字類抄』と『日葡辭書』の漢語語形の比較を通じて——」（『計量国語学』33巻6号）で2022年度計量国語学会奨励論文賞。「漢字字体と慣用音——「萌」の字音の変遷を例に——」で第18回漢検漢字文化研究奨励賞佳作。他の主要論文に、「キリストン版『落葉集』の漢字音について」（『日本語学論集』19号）がある。好きな食べ物はそばめし。



小野 春菜（オノ ハルナ／ONO Haruna）



国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員、清泉女子大学非常勤講師。2018年清泉女子大学大学院人文科学研究科人文学専攻修了。博士（人文学／清泉女子大学）。専門は近代日本語の語彙・表記、国語辞書史。著書に『言海の研究』（武蔵野書院・今野真二との共著）。主な論文に「『倭訓栞』後編からみた『言海』について」（『鈴屋学会報』32）、「『和英語林集成』再版と『言海』の関係再検討」（『国語語彙史の研究』39）、「稿本『言海』にみられる同音異義語の扱い」（『論究日本近代語』2）がある。

河瀬 真弥（カワセ シンヤ／KAWASE Shinya）

京都大学大学院文学研究科人文知連携拠点アカデミックフェロー。2019年3月京都大学文学部卒業。2024年3月京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。専門は明治中期国語辞書を中心とした国語学史。主な論文に「『言海』の用例掲出において重視されたことは何か——動詞「しのぶ」による仮説と導出される『言海』の特徴——」（『国語国文』93(5)）、「『言海』語源欄における漢字表記注記考——正統ではないとする漢字表記注記について、判定の根拠と注記の目的——」（『国語国文』92(6)）がある。趣味はゲームとカラオケ。



康 凱欣（コウ カイキン／KANG Kaixin）

東京大学大学院人文社会系研究科日本語日本文学専門分野博士後期課程。専門は日本の古辞書、文献学。修士学位論文の題目は「和漢聯句に関する日中韻書の研究」（2019年・東京大学）。日本学術振興会特別研究員（DC1）採用期間中の研究課題は「中世韻書を中心とする日本古辞書の研究」（2019-2022年）。口頭発表に、「実作調査から見た和漢聯句をめぐる古辞書類」（訓点語学会第116回研究発表会）等がある。論文に「『和訓押韻』について：掲出字からみた諸本の関係」（『日本語学論集』17）等がある。



小林 雄一（コバヤシ ユウイチ／KOBAYASHI Yuichi）

京都先端科学大学全学共通教育機構講師。2014年京都大学大学院文学研究科博士後期課程指導認定退学。2017年京都大学博士（文学）。2018年公益財団法人日本漢字能力検定協会漢字文化研究所研究員。2022年より現職。主要論文は「『名語記』と『色葉字類抄』」（『國語國文』83-6、2014年）、「『名語記』と歌学書——『色葉和難集』との関係を中心に——」（『訓点語と訓点資料』137、2016年）。



申 雄哲（シン ウンチョル／SHIN Woongchul）



国立ハンバッ大学助教授。2015年北海道大学博士後期課程修了。博士（文学）。専門は日本古辞書、語彙史。日本学術振興会外国人特別研究員（京都大学）、慶星大学韓国漢字研究所HK研究教授、檀国大学漢文教育研究所研究教授を経て、現職。主な著作に「『日葡辭書』所收佛教語彙について：「佛法語」を中心に」（『日語日文学研究』129、2024）、「Research on vocabulary related to modern postal systems in East Asia」（Journal of Chinese Writing Systems、2021）、「図書寮本『類聚名義抄』における掲出語と注文の対応について」（『日本語文字論の挑戦』、2021）。好きな歌手は松山千春。

鈴木 裕也（スズキ ユウヤ／SUZUKI Yuya）

茨城大学教育学部助教。2023年京都大学大学院文学研究科修了。博士（文学／京都大学）。専門は平安時代の古辞書・日本漢字音。主な論文に「改編本『類聚名義抄』の呉音注と共に祖本について」（『国語国文』第90巻第2号）、「『新撰字鏡』天治本と抄録本祖本の先後関係について——仮名の異同と改変から——」（『訓点語と訓点資料』第150輯）がある。「改編本『類聚名義抄』における和音注の継承と増補について」で第15回漢検漢字文化研究奨励賞佳作。



シンポジウム「字典・詞典の研究—回顧と展望—」 研究発表者プロフィール（タ～リ）

田中 郁也（タナカ イクヤ／TANAKA Ikuya）



(公財)日本漢字能力検定協会漢字文化研究所主任研究員。2012年京都大学人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学。専門は中国辞書史。主要論文に「宋本『玉篇』内部構造の分析」(『日本漢字学会報』4)、「真空『篇韻貫珠集』の部首検索法」(『日本漢字学会報』6)がある。「『声類』・『韻集』の五音分類について」(原載於『日本中国学会報』64)で第7回漢検漢字文化研究奨励賞優秀賞受賞。

張 馨方（チョウ ケイホウ／ZHANG Xinfang）



北京第二外国语学院日本語専攻講師。北海道大学大学院文学研究科言語文学専攻修了、博士(文学)。専門は日本における写本の異体字について研究している。博士学位論文の題目は「改編本『類聚名義抄』の漢字字体の研究」。「観智院本『類聚名義抄』における小字字体注記について」で第13回漢検漢字文化研究奨励佳作。

中野 直樹（ナカノ ナオキ／NAKANO Naoki）

常葉大学短期大学部専任講師。2018年大阪大学大学院文学研究科国語学専門分野博士後期課程修了。博士(文学)。専門は辞書史・漢文訓読史。



主な論文に「京都大学大学院文学研究科図書館蔵『字鏡抄無名字書』と『東宮切韻』」「訓点語と訓点資料」(134)、「琉球における漢文訓読の実態—琉球版『論語集註』による—」「訓点語と訓点資料」(149)、「近代沖縄における字書利用の一例—北谷町教育委員会文化課蔵『四書體註』による—」「『常葉国文』(38)がある。「『高僧伝』の古訓法について—伝記類訓読の一例—」で第14回漢検漢字文化研究奨励賞佳作受賞。

武 倩（ブ セイ／WU Qian）



中国海洋大学外国语学院の講師。研究分野は日本古辞書、本草書、日中典籍交流史。2010年に山東大学日本語学科を卒業後、2013年に北海道大学で文学修士、2019年に同大学で文学博士学位を取得。趣味はヨガ。近年の業績：
・『本草和名』に対する狩谷核齋の校勘—箋注による誤りの指摘を中心

に—『訓点語と訓点資料』152輯、2024年3月
・『倭名類聚抄』と『本草和名』—漢籍からの引用に着目して—『日本語学』第42卷第2号、2023年6月
・『本草和名—影印・翻刻と研究—』汲古書院、2021年8月

藤本 灯（フジモト アカリ／FUJIMOTO Akari）



清華大学副教授。2005年東京大学文学部卒業。博士(文学／東京大学)。専門は日本の古辞書、語彙史、文献学。国立国語研究所、京都府立大学勤務を経て、現職。著書に『色葉字類抄』の研究』『山田孝雄著『日本文体の変遷』本文と解説』(いずれも勉誠出版)。データベース構築歴に、『人情本コーパス』『古活字版和名類聚抄データベース』『辞書語彙データベース』等。受賞歴に、2018年度公益信託田島毓堂語彙研究基金学術賞、第10回漢検漢字文化研究奨励賞優秀賞、2021年度稻盛研究助成等。日本語学会編集委員。趣味はチェロ演奏と漫画を読むこと。写真は猫のアリー。

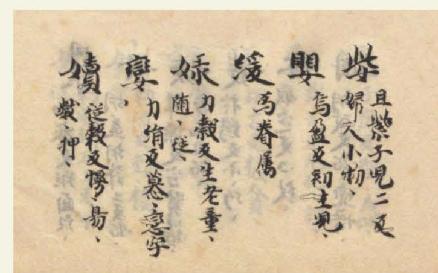
楊 慧京（ヨウ ケイキョウ／YANG Huijing）



京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程。専門は東アジア漢字文化史・漢字字体・文献学。主な論文に「行智『類合』における書体—「書体」から「字体」へ—」(『日本漢字學會報』6)、「日本現存『類合』及び関連資料の考察(一)」(『京都大学國文學論叢』48)がある。2021年橋本循記念会奨学生、2023年度笹川科学研究助成。

「貝原益軒『千字類合』の字体規範」(原載於『日本漢字學會報』4)で第17回漢検漢字文化研究奨励賞佳作受賞。好きな言葉は「細水長流」。

李 媛（リ エン／LI Yuan）



京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター助教。2017年北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。専門分野は日本語学・人文情報学。著書に『空海の字書 人文情報学から見た篆隸万象名義』(北海道大学出版会、2023)がある。受賞歴に、第10回漢検漢字文化研究奨励賞佳作、じんもんこん2016(情報処理学会)学生奨励賞・最優秀論文賞、平成28年度北海道大学大塚賞。

劉 冠偉（リュウ カンイ／LIU Guanwei）



京都大学人文科学研究所助教。2021年北海道大学大学院博士課程修了。博士(文学)。東京大学史料編纂所特任研究員を経て現職。主要論文に「スマホで古辞書：『篆隸万象名義』のIDS検索を例に」(『言語資源活用ワークショップ発表論文集』1)、「Unicode 翻字テキストデータにおける安定な字形データ交換の試み』(『情報処理学会論文誌』65-2)、「オープンソース漢字字形管理システム hi-glyph の開発と応用」(『じんもんこん2023論文集』)がある。「第四屆漢字學國際青年學者論壇特等獎」受賞。趣味はPCゲーム。



清华大学
Tsinghua University